FM戦略企画研究部会

新たな まちづくりへの始動

部会長 **髙藤 眞澄**
たかふじますみ
T-FMコラボレーションLab 代表
認定ファシリティマネジャー

部会員 **塚田 敏彦**
つかだとしひこ
株式会社NTTアーバンソリューションズ総合研究所

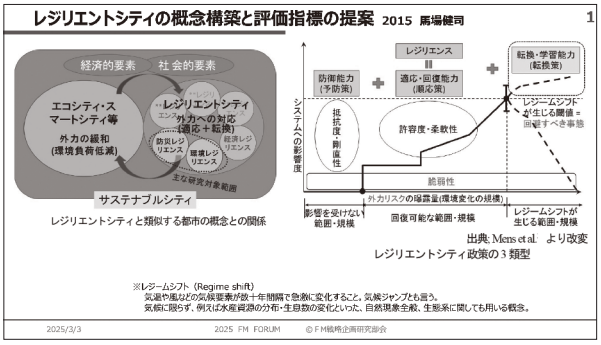
FM 戦略企画研究部会では、この数年「持続可能な都市経営とFM戦略」について研究を重ねてきている。近年、日本では地震・津波・台風や豪雨による洪水と浸水被害が全国各地で発生している。この状況においてまず検討すべきは「安全・安心な避難」の実現である。避難途中での災害巻き込まれや、避難所の劣悪な施設環境のために命を落とす「災害関連死」をなくす必要がある。

避難所における医療活動と健康管理に献身的に取り組む、新潟大学医歯学総合研究科特任教授榛沢和彦氏は、避難所生活の時間経過とエコノミークラス症候群発病の因果関係をデータで示し、避難施設の早急な改善を提案している。まさに FM の問題提起である。さらに、都市や地域が自然災害にとどまらず、さまざまなリスクに対応し持続可能性を維持するには、持続可能性を支えるレジリエンスの構築・向上が必要である。レジリエンスとは、さまざまな外力に対してしなやかに対応し、速やかに復旧・復興する能力であり、防災対策だけではなく、都市のハード・ソフト・住民コミュニティ（社会関係資本等）を総合的に機能させてリスク回避・軽減をすることである。

都市のレジリエンスは国際的にその概念が共有され始めている。芝浦工大の増田幸宏教授は、OECD 報告書やロックフェラー財団＆アラップ社によるレジリエント都市のフレームワークを参考として、「自治体計画分析による都市レジリエンス評価」を行うことを提案している。具体的には、都市のレジリエンス要素を 4 つの領域（健康・福利／社会・経済／インフラ・生態系／リーダーシップ・戦略）に分類し、各領域における達成すべき 12 の目標と 52 の指標を示している。また、レジリエンスの重要な 7 つの特性（柔軟性／余剰性／頑強性／資源力／省察力／包括性／統合性）を提示している。今後、新たなまちづくりの指標として期待や動きが強まると思われるが、SDGs への取り組みと重なる部分も多い。

まちづくりに SDGs を取り入れた「SDGs 未来都市」に選ばれた 206 都市を対象として、防災の取り組み状況を分析した。SDGs169 ターゲットのうち、防災に関連するターゲットとして 18 ターゲットが抽出できた。SDGs 未来都市の提案全体タイトルに防災を位置付けている都市は 5 都市（熊本市・石巻市・福島市・仙台市・江戸川区）ある。防災関連ターゲットの 1 つに、防災への対応を示す「仙台防災枠組 2015-2030」が含まれる。災害による死亡者数の大幅削減など、7 つのグローバルターゲットなどに沿った総合的な災害リスク管理の策定と実施がうたわれていて、43 都市の取り組みに関連付いている。

以上、安全安心なまちづくりの新たな進め方について、3 つの視点から紹介させていただいた。これまでの多くのまちづくりでは、衰退していく地域経済・社会の再生と活性化や環境問題の解決を目指してきたが、災害の続く今こそあらためて自治体や地域住民が連携して、まちの安全安心を検証し、住民の誰も取り残されないまちづくりを進める時ではないか。そこからレジリエントなまちづくりが始まると考える。◀



図表1　レジリエントシティの概念構築と評価指標の提案

図表2　仙台防災枠組 2015-2030